

インマヌエル中目黒キリスト教会

2014年7月6日聖日礼拝

「終章・賛美の恵み～心を通わす」

エペソ人への手紙 5章9-27節

河村従彦牧師



聖書朗読

新約聖書

エペソ人への手紙 5章9-27節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp346~/ 第三版の聖書はp379~

9 — 光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです—

10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。

11 実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。

12 なぜなら、彼らがひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしいことだからです。

- 13 けれども、明るみに引き出されるものは、みな、光によって明らかにされます。
- 14 明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こう言われています。「眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」
- 15 そういうわけですから、賢くない人のようではなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、

- 16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。
- 17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。
- 18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。
- 19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。

- 20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。
- 21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。
- 22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。
- 23 なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。

24 教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。

25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

説教

「終章・賛美の恵み～心を通わす」

エペソ人への手紙 5章9-27節

河村従彦 牧師



はじめに

- 1 イエスさまの最後の晩餐と詩篇113～118
篇から
日常で歌う賛美、特に困難の中で励ましとなる賛美
- 2 モーセの言い残した申命記の説教から
失敗や挫折を通して理想が希望に変わる
ときに生まれる賛美
- 3 パウロが新約のクリスチャンに書き残した
手紙から
人との関係、神さまとの関係と賛美

I 賛美とは

A 旧約時代

古代ヘブル民族が神さまに向かって
発した歌声

神さまの無限の性質と神さまへの絶対的
な信頼

B 新約時代

詩 ～ 楽器の伴奏による旧約聖書詩篇の
歌唱

賛美 ～ 当時のクリスチャンが作った歌

歌 ～ 一般的な意味での歌、霊の歌

II 賛美するお互い

A 文脈から

1 いくつかのことば

語り

心から歌い

賛美し

感謝し 20節

従い 21節

2 互いに

B 賛美の本質

1 それぞれの立場へのお勧め

妻たちよ

夫たちよ

→聖書の結婚の考え方

子どもたちよ

父たちよ

奴隸たちよ

主人たちよ

2 用語の問題
愛する

3 関係が意識される
こういう立場にある人たちが互いに語る

III 賛美を受ける方

A 栄光というイメージを手がかりに

- 1 ひれ伏す ～神は絶対者、王
- 2 旧約的なニュアンス
- 3 ことばの確認

B 恵みの時代の神さまイメージ

- 1 心の中に親しく住んでおられる、
イムマヌエルの神さま
- 2 心を通わす父である神さま
- 3 父子の関係
十字架の上の会話

- C 神さまが栄光をお受けになるとは
 - 1 生活空間でのイメージ
 - 2 神さまとわたしたちとの関係

しめくりに

心を通わす